

県内に東北の生産拠点 3年後400トンの防護柵生産

理研興業

点を設置することで東北各地はもとより北陸、中部エリアも拡大、現場対応をより迅速化させ、ユーザーの要望に応えていく。

県内でも実績のある防護柵メーカーの理研興業(本社=北海道小樽市、函3丁目268の7、柴尾耕三社長)が、県内に東北6県の防護柵製造拠点を構築する。

原材料を供給する大手鉄鋼商社・メタルワン建材(本社=東京都)のプロデュースの下、県内に拠点を構える他社との提携

が実現した。いわき市に工場を持つ国内最大の鋼製階段製造メーカー・横森製作所(同)が加工を担当。道路用資材でありながら精密な構造による高機能を持つ

微とする理研興業の製品に階段製作で培った緻密な技術を生かして効率のよい製造を実現。メッキ

メッキ槽を有する環境対策型工場を持つデンロコ1ホールション(本社=大阪府)が、表面処理のメッキ工程を担当。販売は共栄(いわき市)、シンワ(福島市)が決定した。

は、相馬市に東北最大の

東北管内の防護柵需要は年間約60000〜70000とされ、3年後には福島拠点で約40000トの製造を目標とし、維持管理コストの削減と既設防護柵の安全な運用の提案、診断調査業務では地元コンサルタントとも連携しながら進める方針だ。

地場の間伐材(杉材)を活用した木製防風柵の供給(西郷村)など地産地消と地元産業の連携を重視しており、県内に製造拠